



Weekly Market Report

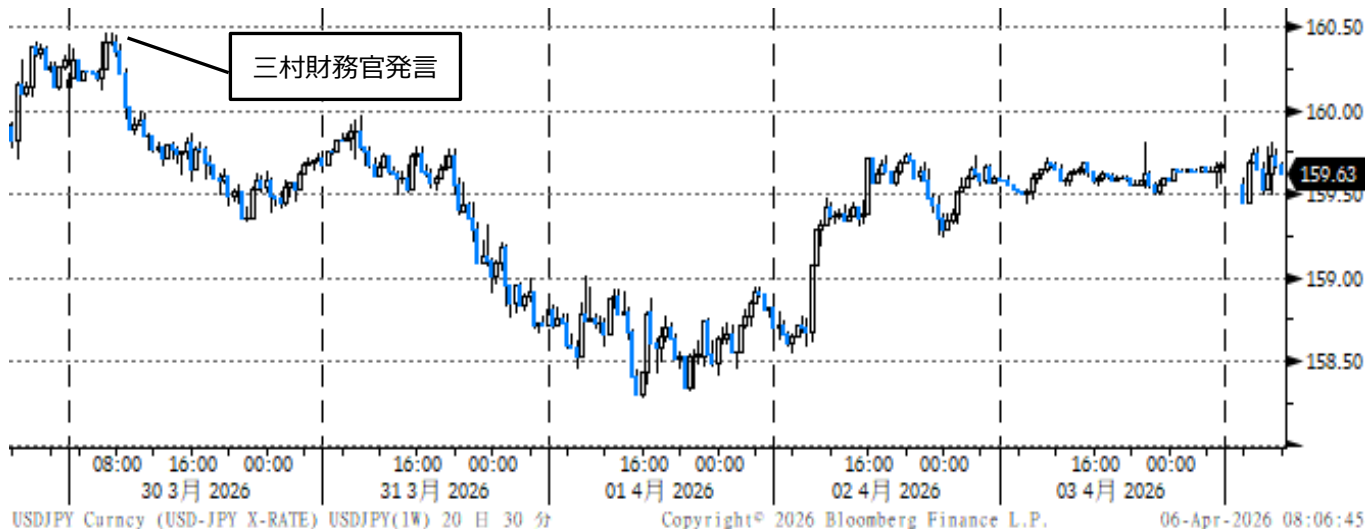
Apr 6, 2026

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

ホルムズ海峡を巡る原油価格動向には引き続き注視。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は日本政府高官による口先介入が入り、一時ドル円は158円台半ばまで円高が進行したが、イラン情勢の先行き不透明感から再び159円台半ばまで行って来いの展開となった。30日は160円台半ばでオープンすると、三村財務官が「そろそろ断固たる措置も必要」と発言し、過度な円安進行をけん制したことで158円台前半半まで下落したが、イラン情勢先行き不透明感から再び159円台後半まで上昇した。また3日にイラン情勢悪化が反映された米国雇用統計で労働市場の底堅さが確認されたことで米国の利下げ期待は後退し、ドル円は底堅く推移し越週。今回の円安は原油価格上昇に伴うものであり、投機筋の円売りポジションも2024年のピーク時から3分の1の水準であることから、過度な投機による円安とは言えず、主に実需中心の動きである。このような環境下では為替介入を仮にしても効力は限定的に留まる可能性がある点には留意が必要。今週の為替市場はイラン情勢のヘッドライト左右され展開が続くだろう。(市場営業部/森本)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/6(月)	(日本) さくらりポート	
4/6(月)	(米国) ISM非製造業景気指数	54.9
4/8(水)	(米国) FOMC議事要旨	
4/9(木)	(米国) 個人消費支出物価指数	0.4%
4/10(金)	(米国) 消費者物価指数	0.3%

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

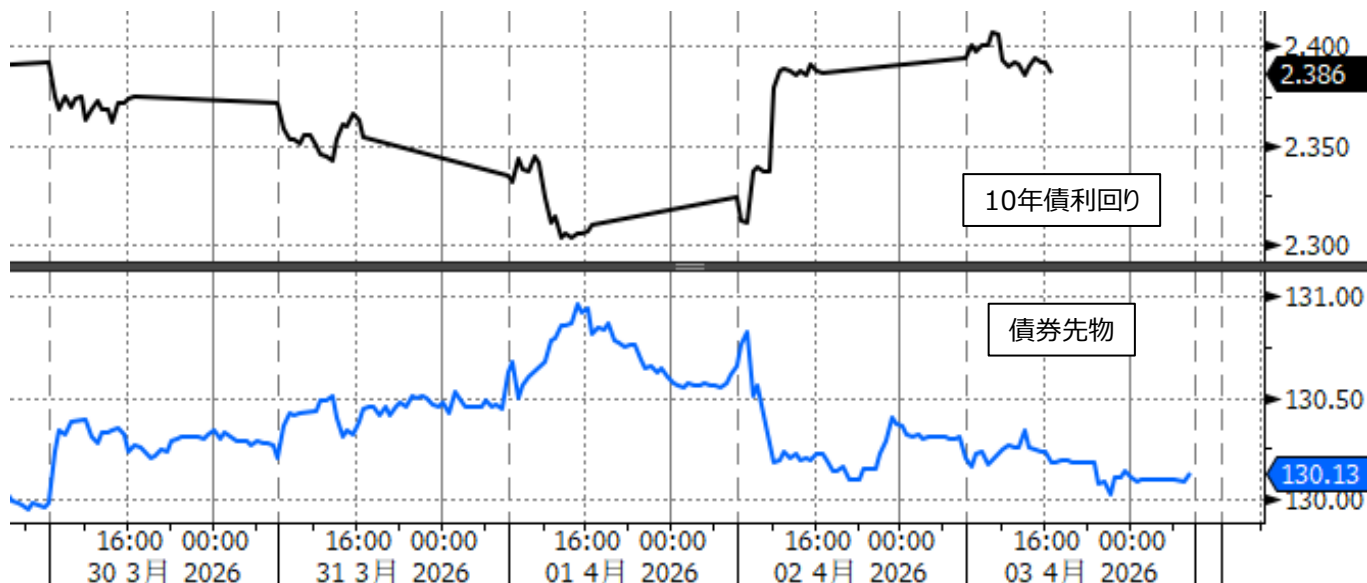
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山口愛	158.50 - 161.50	今週は米指標・FRB高官発言・中東情勢に注目。ドル高円安継続も為替警戒で乱高下しやすい展開と予想。
渡邊和也	158.50 - 161.20	為替介入を意識しつつドル寄り高基調継続を予想。猶予期限失効後の米国による対イラン攻撃や米国CPIに注目。

2. 円金利相場概況

先週の円金利は中東情勢に振り回される展開。今週も引き続き中東情勢の行方に注目。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



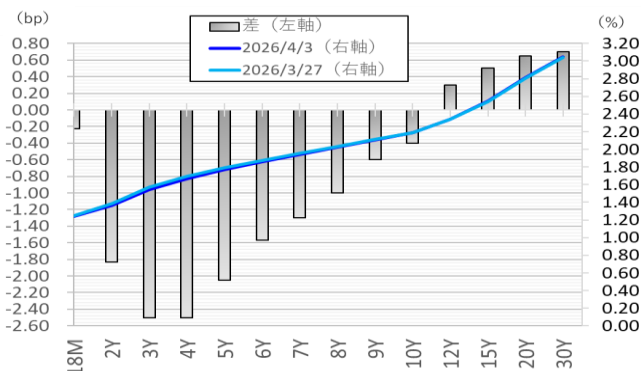
GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 30 日 30 分 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 06-Apr-2026 08:08:10 (出所) Bloomberg

コメント

先週の10年国債金利は、週央にかけて10 b p 程大幅低下するも、週末にかけて再び10 b p 程大幅上昇する荒い展開。週初は、3月の日銀会合の主な意見が公表され、利上げ方向の方針は変わらずで反応は限定的。週央にかけて、中東情勢悪化の長期化が懸念され、日経平均株価が大幅下落したことで安全資産の債券が買われ、10年債利回りは低下基調で推移。週央には、トランプ米大統領がイランに対する軍事作戦の2〜3週間以内の終結の可能性と「その前に(停戦)合意するのも可能だ」と語ったことで原油価格低下とインフレ懸念後退で、10年債利回りは2.304%程度まで低下。週末にかけては、一転、木曜日にトランプ大統領が「米軍は圧倒的な勝利を収めた」、「今後2〜3週間はイランを激しく攻撃する」と話したことで、再び中東情勢緊迫化による原油高騰を懸念し、10年債利回りは大幅上昇し、一時2.400%台を超える水準まで大幅上昇して越週。

今週は、日々更新される中東情勢の動向を注視しつつ、米CPIに対する市場の反応や、要人発言等に注意したい。(市場営業部/松榮)

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
遠藤風翔	2.35% - 2.45%	中東情勢・原油価格が意識される中、関連するヘッドラインに左右される展開を予想。10日公表予定の米CPIにも注目したい。
飯野りさ子	2.30% - 2.45%	中東紛争の長期化リスクが高まれば景気後退が意識され、円金利の上昇余地は限られると予想される。国債入札にも注目。

3. 今週のトピックス

1-3月主要通貨対ドルパフォーマンス

原油高を受けてドル買い圧力の強い展開。ドル円は為替介入への警戒感が上値を抑制

<1-3月主要通貨対ドルパフォーマンス>

2026年1-3月の主要通貨対ドルパフォーマンスは、豪ドルが+3.4%、円-1.3%、ユーロ-1.6%、英ポンド-1.8%と、ドル買い地合いの中で豪ドルが最もアウトパフォームする展開となった【図表1】。2026年2月末に米国とイスラエルがイランへの攻撃を開始し、その後イランが原油の重要な輸送航路であるホルムズ海峡を封鎖したことで原油価格が高騰。産油国でもあるアメリカのドルが買い戻される一方で、原油を輸入に頼る欧州やアジアの通貨が軟調な推移となった。

ただし、原油高によるインフレ懸念から中央銀行が金融政策スタンスを引き締め方向に修正したことが、ユーロやポンドの下支えとなったほか、円については為替介入への警戒感が円安を抑制している。豪ドルは、オーストラリアが石炭や天然ガスを豊富に産出しているため、資源高に伴う貿易黒字の拡大が見込まれることや、オーストラリア準備銀行が2月会合でいち早く利上げに動いたことが豪ドル相場の押し上げ要因となっている。

<シカゴIMM投機筋ポジション>

シカゴIMM投機筋ポジションについては、昨年来のドル離れを受けてユーロの買いポジションが2026年2月に18万枚まで積み上がっていたが、イラン情勢の悪化後はポジションが急速に縮小し、現在はほぼニュートラルの水準となっている。また、豪ドルは対ドルでのプラスパフォーマンスが示す通り、8万枚程度の買い超過、円については昨年4月にピークを付けた円買いポジションが巻き戻され、現在は2024年7月以来となる約7万枚の円売り超過となっている【図表2】。なお、円ポジションの内訳については、これまで円買いを継続していた投信などのアセットマネージャーがほぼニュートラルに戻しているほか、レバレッジファンド（ヘッジファンド）の円売りは拡大基調となっている。

<当面のドル円相場見通し>

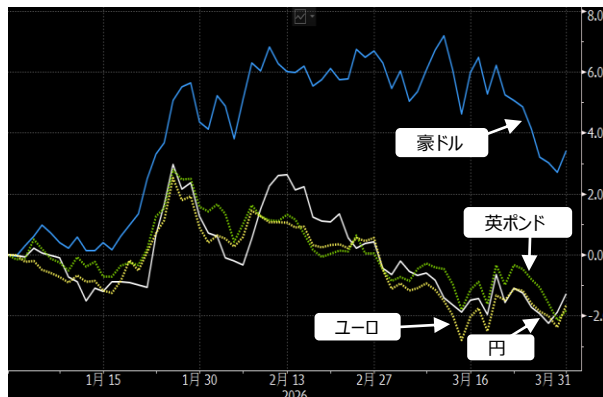
ドル円相場は、イラン情勢の悪化による原油高で一時は2024年7月以来となる160.47円まで上昇したものの、三村財務官から「この状況が続けばそろそろ断固たる措置をとる」といった強めの円安けん制が入ったこともあり、現在は159-160円程度で推移している状況だ。

ドル円は、イランでの軍事衝突が終結した場合には下落に向かうとみられるが、原油価格の高止まりは続くともみられ、日本の貿易赤字の拡大やインフレ懸念から当面のドル円相場は高値圏でのレンジ推移が見込まれる。ただし、為替介入への警戒感や日銀の利上げ期待が上値を抑制することに加え、原油高による米国景気の悪化リスクがドル売り材料となってくることから、当面のドル円相場レンジは155-162円を想定している。

チャートの的には、一目均衡表で三役好転といった強いドル円の買いシグナルが継続していることもあり、雲の上限となる155円台後半はかなり強いサポートとなっており【図表3】。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃)

【図表1】 1-3月主要通貨対ドルパフォーマンス(%)



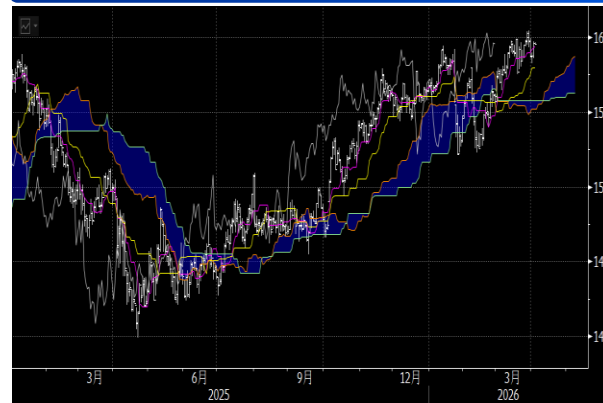
(出所:Bloomberg)

【図表2】 シカゴIMM投機筋ネットポジション(枚)



(出所:Bloomberg)

【図表3】 ドル円一目均衡表



(出所:Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会